

実践1

他者と協働し、学習を調整しながら 課題解決を目ざす授業づくり

「クラスみんなで決めるには」(四年)



「個別最適な学びと協働的な学び」を実現するためには、子ども自身が今までの学びを振り返り、つまづきを確かめることによって、自分の課題を見いだすことが重要と考える。教師は、その個々の課題を把握し、一人ひとりが課題解決のため

に、それまで培った言葉の力や学習の方法をもとに、学習を調整していくような学びの場を工夫しなければならない。また、課題を追究する過程において、他者と協働することで自分の考えを深めたり、より確かな言葉の力を獲得したりすることができるとある。 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に捉えた単元づくりを行っていききたい。

■単元計画(全8時間)

1時～2時

- ・今までの自分の話し合いを振り返り、単元のめあてを立てる。 **ポイント1**
- ※事前に話し合いに関するアンケートを行い、結果をもとに単元のめあてを考えていく。
- ・議題を確かめ、役割を決める。 **ポイント2**

3時～6時

- ・話し合いの例をもとに、よりよい話し合いの方法について考える。 **ポイント3**
- ※「教科書の話し合い例」と「自分たちの話し合いの様子」を比べ、自分たちの話し合いに取り入れた点を「話し合いの技」として整理する。
- ・役割ごとに話し合いの準備をする。
- ・クラス全体で話し合う。 **ポイント4**

7時～8時

- ・自分たちの話し合いを振り返り、「話し合いの技」が使われていたところ、うまく使えなかったところについて話し合う。
- ・単元全体を振り返り、学んだことを確かめる。 **ポイント5**

ポイント1 子ども自身が課題意識をもち、主体的に学習を進める
話し合いに関するアンケートの結果を提示して、単元のめあてや学習計画を立てていく。一人ひとりが課題意識をより明確にして学習に臨めるように、自分自身の回答と、全体の結果を比べながらめあてを考えるようにする。教師は、アンケートから個々の課題を把握し、支援に生かす。

話し合いアンケート1回目 結果

★話し合いがうまくいかないと感じることはありますか？

A ある … 20人 B ない … 7人

話題がずれる	13
話が続かない	9
同じ人だけが話す	5
どう話せばよいか分からない	2
その他	9

- ・おしゃべりになっているから。
- ・勝手に話を進めたり、だれかが話しているときに勝手に話すから。
- ・ふざけたり、言葉づかいが悪かったりするから。
- ・仲のよい友達にだけ賛成して、意見について考えていないから。
- ・人の意見を聞かないから。
- ・自分のやりたいことしか言わないから。
- ・自分の意見が賛成されないと認めないから。
- ・自分の好き・きらい(やりたい・やりたくない)で反対してまもらないから。
- ・反対する理由に説得力がなくて、話の目的からずれていてまもらないから。
- ・決まったことなのに文句をつけるから。
- ・意見が多いものに決まると、文句が出て気持ちよく終われないから。

★話し合いがうまくいくために、気をつけていることは？

- 自分から進んで意見を言っている。
- 人の話を最後まで聞いてから話す。
- 順番に話すようにしている。
- くわしく理由を言って、みんなが納得してくれるようにしている。

ポイント2 一人ひとりの興味・感心を高め、学習につなげる

特別活動など、他教科との関連を図りながら議題を選定していく。今回取り上げなかった議題については、単元を通して学んだ話し合いの方法を生かして学級会などで話し合うことを伝える。

ポイント3 個々の考えを生かし、他者と協働する

教科書の話し合いの例と自分たちの今までの話し合いの様子を比較し、自分たちに必要な話し合いのポイントを見つける。まず自分で考えた後に、グループで相談し、全体で共有しながら「話し合いの技」として確かめるようにする。

ポイント4 自分の課題や役割を意識して話し合い活動に臨む

話し合い準備シートや自己評価シートを活用する。教師は、シートの内容をもとに個々の役割や考えを把握することで、事前準備や話し合いの場における個別の支援に役立てるようにする。

ポイント5 実感をともなった振り返り

自分たちの話し合いの様子について、「話し合いの技」の視座をもとに振り返りを行うことで、よりよい話し合いの方法について実感を伴った理解が得られるようにする。話し合いの様子を可視化した資料をもとに振り返られるよう、ICT機器を活用して話し合いの様子を記録しておく。

また、一人ひとりが自分の学びを自覚し、他の話し合いの場面において学んだことを活用することができるように、単元導入時のアンケート結果や書きためた自己評価シートをもとに単元を通して振り返りを行う。



秋田市立旭川小学校
佐藤 さくら